

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 2年 2月25日

事業所名 鈴鹿市第2療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	16	1		<ul style="list-style-type: none"> 居室のスペースに合った活動を工夫している。 クラスの人数によっては手狭なときがある。 利用者の人数によって手狭に感じることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 設置基準は満たしているが、プログラムによっては手狭な時もあるので、日頃から整理整頓等を心がけ、施設を有効活用していく。
	2	職員の配置数は適切である	17			<ul style="list-style-type: none"> クラスによって利用人数にばらつきがあるので、多職種が連携をとって、それぞれのクラスに見合った職員数で対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 基準を満たしているが、過不足を感じる時もある。まだ開所して間もないので、今後、運営状態の安定を図りつつ、子どもの人数に合わせた適切な活動ができるよう職員配置を行っていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	14	3		<ul style="list-style-type: none"> 玄関がなく、テラス型の屋外通路が建物の出入り口となっているため、季節によっては室内外の温度差が大きい。 テラス型通路と駐車場の仕切りがないので、子どもが自由に外に出ることができる。よって、常に注意が必要となり、職員も保護者も療育活動に集中できない。 セラピーマットをひいて転倒対策をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> テラス型通路の一部をビニール製カーテンで区切り、屋内外の寒暖差や風雨の降り込みに備える準備をすすめている。 テラスから駐車場への子どもの飛び出しについては、手作りの子ども用バリアードで対応し、出迎えや送り出しの際には、可能な限り職員が付き添って安全を確保している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	16	1		<ul style="list-style-type: none"> ところどころにあるコンクリート製の柱が剥き出しになっている構造なので、子どもがぶつかるとケガをする危険性がある。 事業所内にて安全衛生委員会を設け、定期的に美化活動に取り組んでいる。また、各職員が日頃から清潔と安全を意識した環境づくりを心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 柱の角に保護材を貼って安全を確保している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	13	4		<ul style="list-style-type: none"> 日々の療育の後で振り返りをし、次に活かせるよう記録も残している。 毎日の活動終了後、職員間で療育活動を振り返る時間をつくり、改善内容や子どもの様子について情報共有を行っており、その内容を記録に残している。 	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	17				
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	15	2			<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き実施し、周知方法についても検討していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	6	1	<ul style="list-style-type: none"> 第三者による外部評価を実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	17			<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて定期的に職員研修を実施し、資質の向上を図っている。また、他事業所にも広く周知を行い、外部向けの研修会を実施して地域全体の意識を高めている。 	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	17			<ul style="list-style-type: none"> 定期的にあセスメントを行い、利用者ニーズや保護者の抱える悩みに寄り添い、支援計画を作成している。 職員間でモニタリングを行い、各利用児の状態を共有している。 職種間で連携を図り、療育活動や運営全体に反映させている。 	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	16	1			

	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	16		1		
	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	15	1	1	・定期的にモニタリングや会議で、職員が情報を共有し、共通の意識を持って支援を行っている。	
	活動プログラムの立案をチームで行っている	16		1	・リーダーが素案を作成した後、職員全体で協議して作り上げている。	
	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	15	1	1	・職員間で協議検討している。	
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	15	1	1		
	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	17			・毎日必ず行き、意識統一を図っている。前回の様子も振り返り、注意点等を確認している。	・打合せを行っていても多少の意識のずれは起こるので、より丁寧に協議し、小さな疑問でも話し合える職場環境づくりを心掛けている。
	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	17			・毎回行き、改善点は次回までに対応している。	
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	16	1		・終了後の反省会での報告や疑問点等を踏まえて記録し、支援につなげている。	
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	17			・関わりのあった職員が、記録を確認しながら行っている。	
	関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	17			
母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		17				
(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		13		4	・医師の指示書を基に作成している。	
(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		13		4		
移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		17			・引き継ぎ書類の作成及び、引継ぎ会議に出席している。	・他機関と連携しているが、ケースによっては調整や支援が難しい状況もあるので、関係性を継続し、相互理解を深めていく。
移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		17			・引き継ぎ書類の作成及び、引継ぎ会議に出席している。	・他機関と連携しているが、ケースによっては調整や支援が難しい状況もあるので、関係性を継続し、相互理解を深めていく。
他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		16		1		
保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		11	6			
(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		16		1	・参加している。また、持ち帰った情報を職員間で共有している。	

	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	16		1	・療育活動が始まる前の自由時間や、昼食時間中にコミュニケーションを図り、子どもの得意なことや苦手なこと、家庭での様子について情報共有を行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	11	6		・声かけのタイミングやお子さんを理解していただく上で必要な情報を伝えている。	・専門職がファシリテーターとなって保護者同士が話し合える場の提供を検討している。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	16		1		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	16		1		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	15	1	1	・受付時や集団療育、個別訓練時等、常に保護者の表情や態度には気を配り、職員全体で保護者のサインを見逃さないよう心掛けている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	6	1		・市内で活動する当事者の会や家族の会の定例会に職員が同席している。継続して同席し、連携をとっていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	17			・施設長、児童発達支援管理責任者が情報共有を行い、相談内容に応じて適切な対応ができるよう体制を整えている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14	3		・メールやスマートフォンのアプリを活用して取り組んでいる。事業所内の掲示板でも、療育プログラムや講演会等のお知らせを行っている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	16	1		・書庫の施錠や廃棄の際のシュレッダー使用等、取り扱いについては厳重に行っている。	・個人情報の取り扱いには、十分注意する。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	16	1			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	12	5			・開所して間もないので、今後の課題としたい。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	14	2	1	
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	15	1	1	・年間2回の実施予定である。	・療育中に子どもと保護者の参加協力を得ながら実施している。今後は、より現実的な内容を想定して取り組み、非常時に備える。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	16	1		・確認し、職員が共有できるように記録している。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	16		1	・保護者に確認をしている。 ・職員に周知している。 ・道具をわけて使っている。	・適宜、保護者に確認のもと、アレルギーに配慮して活動を進めている。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	17				
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14	3			
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	14	1	2	・現状では、身体拘束の事例がない。	・現状では事例がないため、説明や記載の対応はない。今後、必要性が生じた場合、適切な対応をとっていく。